

法人名 財団法人 山梨県馬事振興センター

【法人の概要】

代表者名	理事長 遠藤順也	所管部(局)課	農政部畜産課	
所在地	北杜市小淵沢町10060-3	電話番号	0551-36-3945	
ホームページURL	http://www.nns.ne.jp/ass/baji	E-mailアドレス	baji@nns.ne.jp	
資本金(基本財産)	1,000 千円	設立年月日	昭和57年6月17日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	山梨県	400 千円	40.0 %
	2	北杜市	400 千円	40.0 %
	3	山梨県馬術連盟	200 千円	20.0 %
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
その他	団体(者)			
設立の経緯等	(設立) 本法人は、「かいじ国体」(昭和61年10月)で整備した馬術競技用施設を管理運営し、これを有効活用して事業を実施する法人として、県・小淵沢町・馬術連盟の出捐により設立。 (目的) 馬術技術の普及奨励と優良乗用馬の育成供給等を行い、もって畜産の振興に寄与すること。 (経緯概況等) 国体終了後も県の馬事振興を図る拠点とし、各種大会の開催、研修会開催等により馬術普及に貢献している。			

【主要事業の概要】

事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		H17年度	H18年度	H19年度
事業1 馬事技術普及奨励事業	各種大会・合宿の受け入れ、施設の利用を通して馬事普及を図った。県有競技馬を中心とした調教技術の向上に努め選手強化の実績を挙げた。	78,240	84,889	69,474
事業2 優良乗用馬育成供給事業	優秀馬の繁殖事業に伴う生産育成による乗用馬と競走転用馬の再調教を施し広く乗馬関係者に供給した。	17,159	12,660	13,125
事業3 その他法人の目的を達成するために必要な事業	地域と連携しホーストレッキング大会やホースショー及び小中学生の体験乗馬等の開催を支援し、地域スポーツ文化及び馬事振興発展に協力した。	137	2,101	2,545

【組織】

	年度	平成18年度					平成19年度					平成20年度				
		職員 プロパー 員	派遣 兼務 員	県 職 員 OB	県 OB	その他	職員 プロパー 員	派遣 兼務 員	県 職 員 OB	県 OB	その他	職員 プロパー 員	派遣 兼務 員	県 職 員 OB	県 OB	その他
4月1日現在の人員	役員															
	理事(常勤)	1			1		1				1	1				1
	理事(非常勤)	11		5		6	11		5		6	11		3		8
	監事(常勤)	0					0					0				
	監事(非常勤)	2		1		1	2		1		1	2		1		1
	評議員	0					0					0				
	計	14	0	6	1	7	14	0	6	0	8	14	0	4	0	10
職員	管理職	2	2				2	1		1		2	1		1	
	一般職員	2	2				3	3				3	3			
	臨時職員	6	6				4	4				4	4			
	非常勤職員	0					0					0				
	計	10	10	0	0	0	9	8	0	1	0	9	8	0	1	0
プロパー職員の年齢構成 (H21. 4. 1現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計		平均年齢	平均年収					
	男性			3		1		4	役員		(千円)					
	女性							0	常勤							
	合計	0	0	3	0	1	0	4	職員	41	(千円) 4,750					

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		17年度	18年度	19年度	増減(19-18)
正味財産の状況	基本財産運用益	0	0	0	△ 0
	受取会費				0
	受取寄付金				0
	受託事業収益	41,167	28,579	26,626	△ 1,953
	自主事業収益	20,918	25,082	24,337	△ 745
	受取補助金等	42,364	37,931	34,136	△ 3,795
	雑収益	6,364	11,369	8,228	△ 3,141
	経常収入 計	110,813	102,961	93,327	△ 9,634
	事業費	17,295	14,761	15,670	909
	うち人件費				0
	管理費	111,731	86,114	78,648	△ 7,466
	うち人件費	38,715	41,898	33,869	△ 8,029
	経常支出 計	129,026	100,875	94,318	△ 6,557
	当期経常増減額	△ 18,213	2,086	△ 991	△ 3,077
	経常外収入		11,315	239,286	227,971
	経常外支出	691	13,250	23,037	9,787
	当期経常外増減額	△ 691	△ 1,935	216,249	218,184
当期正味財産増減額	△ 18,904	151	215,258	215,107	
正味財産期首残高	360,009	102,005	102,156	151	
正味財産期末残高	341,105	102,156	317,414	215,258	

(単位:千円)

項 目		17年度	18年度	19年度	増減(19-18)
財務状況	流動資産	52,372	58,272	35,121	△ 23,151
	固定資産	312,323	73,388	301,040	227,652
	資産 計	364,695	131,660	336,161	204,501
	流動負債	5,886	15,710	1,561	△ 14,149
	うち短期借入金				0
	固定負債	17,704	13,794	17,186	3,392
	うち長期借入金				0
	負債 計	23,590	29,504	18,747	△ 10,757
	正味財産	341,105	102,156	317,414	215,258
	うち基本財産への充当額	1,000	1,000	1,000	
うち特定資産への充当額					

(単位:千円)

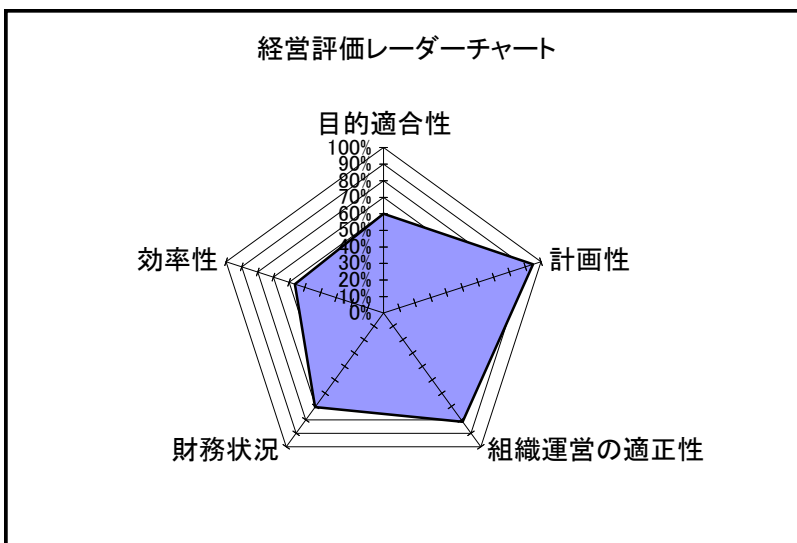
項 目		17年度	18年度	19年度	増減(19-18)
県の財政的関与の状況	負担金				0
	人件費(派遣法)補助金				0
	人件費(派遣法以外)補助金	6,074	7,493	5,741	△ 1,752
	人件費以外の補助金	3,666	4,170	4,760	590
	運営費補助金	9,740	11,663	10,501	△ 1,162
	事業費補助金	1,673	935		△ 935
	補助金 計	11,413	12,598	10,501	△ 2,097
	人件費(派遣法)委託金				0
	人件費(派遣法以外)委託金	19,385	18,421	16,723	△ 1,698
	人件費以外の委託金	9,066	6,913	6,913	0
	委託金 計	28,451	25,334	23,636	△ 1,698
	県支出金 計	39,864	37,932	34,137	△ 3,795
	県の財政的関与の割合(%)	36.0	36.8	36.6	△ 0
県貸付金残高				0	
県債務負担実際残高				0	

【県の財政的関与の内容・目的】

項目	内容・目的
補助金(運営費)	山梨県馬術競技場の管理運営を行うために要する経費。
補助金(事業費)	山梨県馬術競技場の施設整備を行うために要する経費。
委託金	県有競技用馬の能力を効果的に発揮させるため、飼育管理業務に係る委託経費。
債務負担行為	

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	5	20	17	85.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	5	20	19	95.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	4	16	13	81.3%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	11	44	32	72.7%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	8	32	17	53.1%
合計		33	132	98	74.2%



【警戒指標】

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	当初の設立目的に適合した業務を実施し、地域の活性化にも十分な成果を上げている。
計画性	経営計画並びに事業運営合理化計画に基づいた、管理運営を行っている。また、計画と実績の差異分析を行い、法人運営に反映させている。
組織運営の適正性	組織の人員構成・業務チェック機能は概ね良好である。
財務状況	借入金なく、安全な資金運用など健全な経営である。管理費を削減し、収入を確保したものの依然県からの財政支援に依存しなければならない状況にある。
効率性	施設の有効利用を図り、必要最小限の人数で事業収入を確保し、管理費を削減することで効率性は向上したが、引き続き効率的な運営に努める。
総合的評価	目的にあった計画的な運営をおこなっているが、依然県からの財政支援に頼らざるを得ない状況であり、更に経費の縮減と収入の増加を図る必要がある。



対応策	必要最低限の人員で、管理費の削減工夫をしながら、新規事業に取り組むなど事業収益を確保していく。
-----	---

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	各種大会の開催や合宿等の受入及び選手強化、繁殖事業、指導者養成研修など馬事技術の普及及奨励や畜産振興に寄与しており、目的に適合している。
計画性	経営計画や事業運営合理化計画に基づき、計画的な事業運営に取り組んでいる。コスト分析を実施し、経営改善を図ることも必要で。
組織運営の適正性	必要最小限の職員数で業務を行っており、現体制は合理的な組織体制である。また、情報公開では財務諸表や事業報告等をホームページにおいて積極的に公開するなど透明性を図っている。
財務状況	収支比率の評価が低いが、管理費の削減や収益を確保することで、毎年改善を図ってきている。今後合理的な経営を行い更なる改善をすすめていく必要がある。
効率性	経営計画に基づき、管理費の削減に努めながら事業収益を確保し、県からの財政支援の縮減を行っているが、既存事業の充実や新たな事業に取り組むことで、施設を有効活用するなど事業収入を増やしていく必要がある。
総合的評価	概ね設立目的に沿った法人運営がなされており、十分に評価できる。今後は、経営計画に基づき、業務の効率化や新規事業への取組などにより事業収益を向上させ、県からの財政支援に極力頼らない自立的な経営を図っていく必要がある。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営評価アドバイザーによる総合評価)

今後更なる改善、見直しを行うべき視点	
総合的所見	
※ ランク下の%は得点率の範囲	<p>・法人運営を県補助金・委託金に依存してきたため、経済性や効率性を重視する経営方針に欠け、効率性の評価が低く、全体的な評価を下げる要因となっている。</p> <p>・平成18年度に策定した経営計画に基づき、計画と実績の乖離分析、効果検証等を定期的に行い、サービスの向上とコスト縮減に向けた不断の改革を実施するとともに、地域と連携したイベントの開催など新たな事業を積極的に実施して増収を図るなど、極力、自立的な経営を目指していく必要がある。</p> <p>・併せて、職員の意識改革にも努め、最少コストで最大サービスの提供を追求する組織体制の確立に向け努力する必要がある。</p>



【総合所見等に対する今後の対応方針】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに応えられるよう、職員の意識改革と利用しやすい施設への改善に取り組むことにより、サービスの向上を図る。 ・既存事業の充実により事業収益を向上させ、更なる運営経費の削減により、極力県からの財政支援に頼らない自立的な経営を図る。 ・スポーツ振興の観点から、新たな事業に積極的に取り組むことにより増収を図り、法人の自立性を高める。
--